

【学生フォーラム】

「東日本大震災から学ぶ地域防災」

愛知学泉大学・学生会

綿引 拓都、川崎 美秀、神谷 美葵

・概要

安城学園(安城学園高校、岡崎城西高校、愛知学泉大学、愛知学泉短期大学)は、東日本大震災発生時から、ボランティア活動を続けた、今年は、安城学園高校、岡崎城西高校と愛知学泉大学・愛知学泉短期大学学生会として、今まで活動してきた所で、実際に被災した人たちから、防災について学んできた。そこで、地域と共に考える防災の大切さとその活動について報告する。

・本編

「もしも」は起こる。自然災害を前にまさかとは通用しない。知識、情報、判断、行動の全てが揃って防災である。逃げた人、逃げなかった人、逃げられなかった人がいるが、悲しみや可哀想だけで終わらせては行けない。守るだけではなく、守り続けなければならない。

目に見えるものだけが復興ではない。自分い出来る復興のカタチを考えなくてはならない。

今年は、コロナ禍のために開催できなかった元禄時代から続いてきたと言われる大船渡市盛町灯ろう七夕まつりのお手伝いにも、参加する事ができた。今回は、安城学園、岡崎城西高校の高校生と共に系列校が一つとなって、参加した。そこで、感じ考えた地元のお祭りの役割を防災の観点から考えてみた。

防災に必要なものは何か。最終的には、人と人との繋り、普段からの関係性の構築が大切である。そのためには色々な方法で地域と繋がる必要がある。その一つがお祭りではないだろうか。

お祭りの役割はなんだろうか。伝統の継承と言われる。では、伝統ってなんだろうか。災害に纏わる事の伝承も重要であると考ええる。

そこで、お祭りを開催するにあたって必要なことはなんだろうか。話し合い、準備を通じて繋がりが出来る。昔は繋がりがあったからお祭りが出来た。今はお祭りを通じて繋がりを持つ事が必要である。

学生フォーラムに集まった学校法人は私立である。災害・防災にかんする私立学校の役割は何であろうか。公立の学校は避難所として指定されている。しかし、私立の学校は協定を結ばないと災害時に協力できない。しかし、地域の住民は水害にあった時、より高い場所を目指して避難しようとする。指定された避難所ではなく目の前にあるより高い建物に向かおうとするのではないか。

愛知学泉大学・短期大学、隣の岡崎城西高校は矢作川の液状化する地域に位置している。この地域で見渡すと、高い建物はこの両学校が目に入っている。もしも、自分がこの地区に住ん

でいたら、指定の避難所がどこかと考える前に真っ先に駆け込むことになるだろう。被災した場合、瞬時の判断が生死を分ける。東北の被災地では、この言葉を多く聞いた。

学生フォーラムに集まった岡崎市の4学校法人の学生、教職員の皆さんへ。

今、注目されている南海トラフ地震は、20年以内の発生確率が「60%程度」と言われている。

岡崎にある私立学校の使命として！発生しても想定外と言わず、しっかりした対応ができるように準備しましょう！